

2005 年茅野市美術館（長野県）で、木之下晃先生のプロデュースのもと始まった『寿齢讃歌—人生のマエストロ—』。茅野市美術館で開催されたワークショップの中での木之下先生の言葉を写真とともにご紹介します。（資料・写真提供：茅野市美術館）

人間の顔に私はいつも強く惹かれています。
顔って、やっぱりその人の生きてきた人生なんです。
顔はほんとうにいいものなんです。
顔って、生きてきたその結果できるものなんですね。

茅野には元気なお年寄りが多いから、いわゆる
“人生のマエストロ”というのはおじいさんおばあさんたちだから、お年寄りを写した展覧会を
やろうと思ったのです。

写真の美学というのは、シャッターチャンスとフレーミングにあります。トリミングすることによって、写真というのはぐっと生きてくるわけです。でも、こういうふうにしなればいけないというんじゃなくて、実は写真はこういうフレーミングの仕方にポイントがあるんだというのをみていただいて、これから写真をとっていただければいいんじゃないかと思うんです。

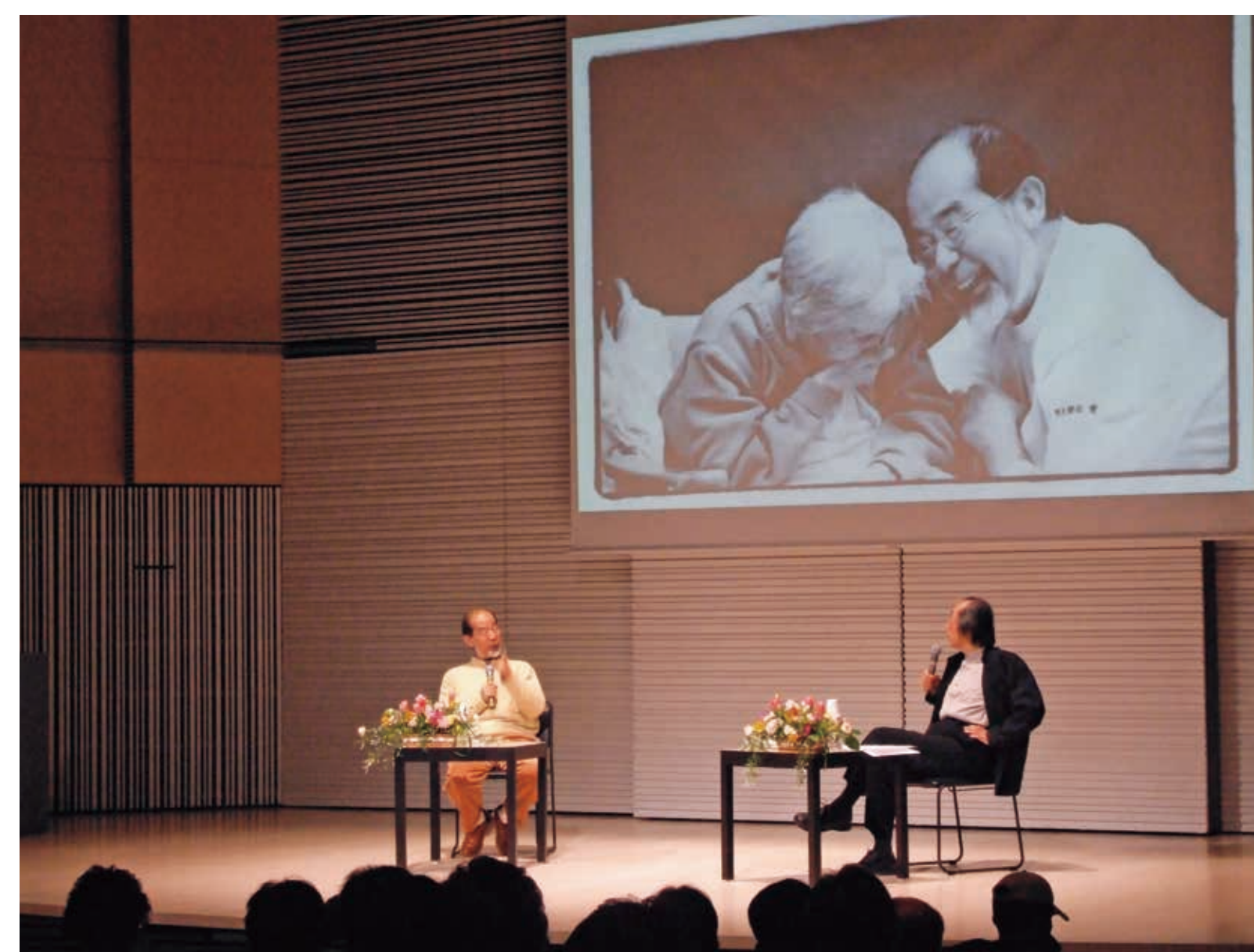
今、世の中はすごく色彩過多なんです。色がたくさんあることによって、いろいろなことを説明し過ぎてしまう。モノトーンというのは基本でして、それがいろいろな想像力を浮かばせるわけです。

私は基本的に写真とは記録だと思っています。写真というのは、常に、世代を繋げるもの、そして次の世代に伝える記録だともっています。私は、どんな写真も必ず撮った時間と場所を背負っていると思います。

私がこの展覧会を企画したときに、まずは図録にして必ず残していこうと思ったのです。そして、それがたまっていったときに、そこにはその時々日本、日本人が残っているだろうと思ったのです。「人生のマエストロ」という展覧会をやりながら、日本の文化も残していきたいというふうに思っているんです。

木之下 晃（音楽写真家・日本福祉大学客員教授）

1936年長野県諏訪市生まれ。諏訪清陵高校卒業後、日本福祉大学で学ぶ。中日新聞社、博報堂を経て、フリーの写真家となり、音楽関係の写真を専門に国内外で活躍。『寿齢讃歌—人生のマエストロ—』写真展をプロデュースし、2005年より9年間に渡り講師を務める。2015年1月逝去。



木之下晃ワークショップ 寿齢讃歌Ⅱ—人生のマエストロ—
対談「長生きするということは何？ 高齢者を撮ることとは何？」
鎌田實（諏訪中央病院名誉院長）× 木之下晃（写真家）
■2007年4月6日（金） 19：00～
■会場：茅野市民館コンサートホール



木之下晃ワークショップ 寿齢讃歌Ⅳ—人生のマエストロ—
対談「お年寄りを撮るということ」
加藤幸雄（日本福祉大学学長）× 木之下晃（写真家）
■2009年4月5日（日） 14：00～
■会場：茅野市民館コンサートホール



展示作業中の会場で、展示の様子を確認する木之下先生と美術館サポーター、学芸員
■2014年9月12日（金）
■会場：茅野市美術館